

金沢美術工芸大学 大学院特別講義 (公開講座)

「花俤 (はなのおもかげ)」

日時：11月17日(金) 17:40~19:10

場所：3号館 1F 101講義室 *全学年対象

※ 駐車場のご用意はありません。公共交通機関をご利用ください。

講師：花道家

杉謙太郎



～杉の花とは、構成の完成度や美しさを目指す造形でも、見るものを驚かせるようなパフォーマンスでもない。その花の美しさは、常に私たちの瞼の裏にある。それらはいずれも、我々の感覚では存在を捉えられないもの、視覚では見られないもの、つまり無数の魂へと捧げられる「面影の花」である。そこには、常に未来が内包されているのである。こうした花のなかに秘められた未来が、生々しい生の鮮やかさとなって、生きている花として私たちの前に現れる。瞬間ごとに姿を変えていく花の持つ生の鮮やかさ、その背後にある、実体を持たないが故に変わることのない永遠との融合が、杉の花のなかに実現されているのである。

～古典花道研究家 村井孝行(江の浦測候所 2023年4月16日『杉謙太郎花会 「花鎮めの宴」会記』より抜粋)



杉謙太郎 | Kentaro Sugi

1975年福岡県生まれ。18歳より花の道へ。花道家・原田耕三に師事。古典花道研究者・岡田幸三から弟子の原田耕三へと受け継がれた「いけばな」を根幹に独自の活動を進める。現在、全国各地にて開催する花会を通じて精神を広めている。近年の主な花会活動に「やがて土へと還る」(2022年8月新潮社青花)「花鎮めの宴」(2023年4月杉本博司 江の浦測候所)「blind flower」(2023年5月 多摩美術大学)がある。2024年1月には東京画廊にて個展開催予定。

写真：奥山晴日・作品「踏花(ふみばな)」2023, 杉謙太郎, 多摩美術大学